

令和6年10月定例記者会見要旨

開催日時 令和6年10月24日（木） 午前10時30分 302会議室

（総務部長）皆さんこんにちは。常日頃より大変お世話になっております。ただいまより、10月の定例記者会見を開会します。よろしくお願いします。

（市長）皆さんこんにちは。

日頃から市政の報道にご協力をいただきましてありがとうございます。

秋も後半の、紅葉も始まったという季節になりました。今年も夏が随分長かった印象ですが、ここへきて急に冷える日が出てきて、季節は確実に移っていると感じております。

後期10月がスタートして早1ヶ月が経とうとしております。本日は来月11月の日程を中心に発表してまいりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

それでは、お手元に配布しました資料をもとに説明を申し上げます。

（11月の日程説明等）

○上諏訪エリアチャレンジ2024「スワマチ スローハイク」まちにヌックを探しにいこう

いつもよりゆっくり歩いてみるだけで、まちの風景は少し変わって見えてきます。そんな風景の先には、心地よい場所や素敵なお店の発見、思いがけない出会いが生まれるかもしれません。スワマチスローハイクは、愛着のわく居心地の良い場「ヌック」を、ゆっくり散策しながら見つける、1ヶ月間限定の参加型社会実験です。日常の暮らしにちょっと楽しみを添える、みなさんならではのヌックを、一緒に探してみませんか。

開催場所 末広・小和田・大手エリア

開催期間 2024年10月26日（土）から11月24日（日）

（集中実施日 11月9日・10日は スローハイク・マーケットを開催）

◇11月9日・10日開催 スローハイク・マーケット

- ・空き家・空き地 de スローハイク
- ・スワマチ ライブ
- ・チャレンジショップ
- ・野外上映会
- ・キッチンカー

○地震対策図上訓練

◇概要

日時 令和6年11月15日（金） 13:00～15:00

会場 市役所本庁舎302会議室

- ・今回は、事前体制がない中で発生した地震を想定し、各対策部の初期活動も訓練対象。

- ・状況付与型訓練

◇想定

令和6年11月15日（金）昼に発生した地震により、強い揺れを観測。市内の広範囲で様々な被害が発生。13時に災害対策本部を設置。すでに、市民から各対策部、危機管理室に複数の通報が入っている。

◇ 訓練内容

- ・市民等からの災害対策本部への通報の受理
- ・各対策部（各課所）への通報の伝達、対策部長への報告
- ・各対策部での対応の協議、決定、実行
- ・災害対策本部では、報告のあった被害及び各部の対応の統制（優先的に対応する事項の決定等）
- ・防災DX として、プリザンター、統合型地理情報システム（GIS）を使った情報統制（入力、共有、参照）

○令和6年度 すわ未来創造「子どもゆめプロジェクト」

11月23日（土）13：30 駅前交流テラスすわっチャオ

市内の小学校に在籍している小学生のメンバー及び高校生・大学生サポーターによって、5月から始まりました本事業が、11月23日(土)に最終回(第13回)を迎えます。

令和6年度のプロジェクトメンバー6名（6年生1名、5年生5名）は、全体のテーマを「私たちがつくる諏訪の未来」として「①水と緑あふれる豊かな環境をつくるまち」、「②ゼロカーボンシティとして資源を大切にできるまち」、「③人と環境にやさしいものづくりの情熱があふれるまち」の3つの視点を持って、メンバーや高校生・大学生サポーター等と学校や年代を越えて共に協働しながら、テーマに対する答えを見つけるために探究活動を進め、市長への提言に向け、大詰めを迎えて頑張っています。

その間、関係団体の皆様にはSDGs の取り組みやフィールドワーク等で、具体的な課題や実践化の考え方、方向等をお示しいただき、本プロジェクトの活動にご支援をいただきました。

○台東区・諏訪市 友好都市提携 40 周年記念事業

11月5日（火）16：30 東京都台東区

○令和6年度 蔵前・如水・理窓スマイリンクセミナー

11月8日（金）17：00 RAKO 華乃井ホテル

○諏訪市認知症予防・啓発講演会

11月16日（土）14：00 文化センター

○ゆかり市長の出張トーク

11月21日（木）10:00 市内

○第46回 諏訪市芸術祭「大鹿歌舞伎 諏訪公演」

11月24日（日）14:00 文化センター

○諏訪市議会 本会議【招集日】

11月26日（火）

○令和6年度 中学生の「税についての作文」・「税の標語」表彰式

11月27日（水）16:30 大会議室

○令和6年度 諏訪市美術館学校連携展

「豊田小学校+矢島与萌^{やじまともえ} 路傍^{ろぼう}のかやみぎやみ^{きやみぎやみ}ー今わたしのそばにー」

本展覧会では、岡谷市出身の陶芸家・矢島与萌^{やじまともえ}さんと、豊田小学校3年生の児童たちがコラボレーション。諏訪地域に古くから存在し、地域に深く根付いている道祖神をモチーフに作品を制作しました。

今回、豊田小学校3年生の児童たちは、豊田小学校近辺にある道祖神を見て回り、実際の道祖神の形や大きさ、描かれているものについて学びました。さらに、諏訪市で活躍する道祖神ナビゲーターの小野川恵美子^{おのがわえみこ}さんを講師に招き、豊田地区以外に存在する市内の道祖神や、それにまつわる民話についてのお話を聞きました。

児童一人ひとりが作り上げた作品は、豊田公民館工芸棟の窯で焼成しました。

追加でニュースですが、皆さんには今年の2月に受賞をしたというこの映画です。「御渡り/MIWATARI」というタイトルですが、八剱神社の宮司さんが、580年以上にわたり毎年、御神渡りを観測しそれを記録に残してまいりました。自然観測定点観測記録においては、世界最長と言われています。そして近年御神渡りが出現しない明けの海が多くなっていました。ここ6年間連続して諏訪湖は凍っていません。この時580年の記録があることによって、ここで急速に温暖化が進んでいるということの証明にもなっています。環境省も注目しております。毎年2月に、1ヶ月間の観測が終わった後、報告を八剱神社の宮司や大総代が諏訪大社の拝殿へ行って、諏訪大社に報告し、諏訪大社から、本庁や環境省へも近年は報告

をしているということで、チェンジングクライメイトチェンジングライブス国際映画祭 2024 年のドキュメンタリー部門の審査員大賞を受賞しました。COP29 がアゼルバイジャンで開催されていますが、11 月 18 日にタイ政府の分科会会場で上映されることになりました。私も地元の市長として、議論の導入のためのメッセージを送って欲しいとのことで、2 分ほどのビデオメッセージを送らせていただいたところです。地球温暖化におけるそうした世界が注目しているこの御神渡りの定点観測記録を継続してきたという意味では、この諏訪湖という湖が非常に注目されてきたということと認識しています。私たちは、世界中の環境、地球環境はみんなができることからやらなくてははいけません。この上流である高原の湖から太平洋に向かって、ごみを出さないという取り組み等広い視野に立って、地球環境に貢献する民でありたいという思いも乗せて、こうしたきっかけを作ってもらったと思っていますので、今日は少し宣伝させていただきました。よろしくお願いいたします。私からは以上でございます。

(総務部長) 市側からの説明は以上となります。ここからは記者クラブさんの方にマイクを移しますので当月の幹事社であります長野日報さんよろしくお願いいたします。

記者との質疑応答

○湖周最終処分場について

(記者) イベント盛りだくさんで激動の 10 月もあともう少しですが、ちょっと心身がまいっているの、来月はまち歩きをしたいと思います。よろしくお願いいたします。最初に湖周最終処分場の関係です。先日の全協と組合議会のときには「今日は板沢には建設しない」という報告にとどめて、検討はその次の日から始めるという副市長からの言葉があったと思いますが、具体的にどういう検討から着手されたのかという点と、例えば、その板沢にする候補地を選ぶ過程の中でも、他の候補地があったと思いますが、そういう第 2 第 3 候補地を中心に、今色々な調査をしているのか、その辺を確認したいです。

(市長) ほぼ原点に戻りましてゼロからのスタートというふうに考えていただいてよいと思います。そしてこの板沢を撤退するときに、皆さんにも報告いたしました、板沢区の皆さんにおかれては、本当に長い時間研究をし、そして判断し受け入れを決定し、我慢の日々を過ごしていただきました。その板沢区の皆さんの総意のコメントの中に、次の候補地を選ぶにあたっては、時代も随分経過していたりするので、ぜひ時代を見据えて、新たな視点を持って取り組んでいていただきたいというような言葉もございました。今確かに、科学技術も進化してきております。それからごみの減量の取り組みを進めてきています。そうしたところから情報を共有して、湖周の事務組合としても次に進むための前提の申し合わせ事項が必要になりますので、それが一つ大事な取り組みになると思います。諏訪市としては場所をどうするかということは、一番大きな課題になりますので、同時にその研究を

進めたいと思っているところです。今も白紙の状態であるということではありますが、副市長からもしフォローがあったらお願いします。

(副市長) 今日このタイミングで具体的にお話できることはございませんが、先般の湖周行政事務組合での板沢区の断念の報告以降、事務方レベルにおいては具体的な検討にすでに入っております。ただ、現時点でまだ公に発表できることはないということですが、今現場レベルでの次へ向けての動きを一生懸命進めているところということでもあります。

(記者) 原点に戻ってゼロからのスタートということで、これまで東山地域にそういう処分場を整備してきた関係で、今回の候補地の選定にあたっては西山地域を軸に検討されたと思いますが、この部分を引き続き西山地域で検討されるのか、そういうのをなしにして東山も含めて、市全域で検討していくかというのを確認したいのと、もちろん辰野町もそうですが、諏訪市の地域を考えると箕輪町の上流にあたる地域もあるわけで、そういう峠を超えた部分というのはこれから配慮するのかという2点をお聞きしたいです。

(市長) ゼロからのスタートですので、全体、全域の中から、可能性のあるところの研究をしていきたいと思います。峠を超えてということの議論は、今回特別に、昭和の年代の課題の感情的な部分の論拠として語られたことでありまして、それは今回反対された辰野町の期成同盟会の皆様のご発言であったと認識しております。日本全国各地一般論としましては、エリア内に建設するというので、その斜面がということをしての規制はなく、ただ市境からどのくらい離れているというかそういう目安というものはあると思いますが傾斜については、規定ではないと思っています。しかし全域から、可能性のあるところ、まずはから受け入れていただけるということが大事だと思います。

(副市長) ゼロベースで、次の候補地を考えていくということを申し上げておりますので、ゼロベースということは当然諏訪市の全域がまず対象になるということを押さえておきたいと思います。ただこれまでの様々な経過、角間新田上のごみの焼却場やまたさらにその上の大曲の最終処分場等を運営してきて、一旦終結をしたというこれまでの経過がございます。その経過の中には、東山の皆さんとの様々なやりとりがございます。それから今回板沢を断念するにあたっては、峠を超えた向こう側に計画をしたことによる、辰野町の皆さんとの様々な経過がございます。そういった経過は当然経験値として、次を選択するときの一つの材料にはなりますが、今ベースにあるのはもう一度諏訪市全域を見渡して、ゼロベースで考えていこうと、ただ、これまでの様々な経験値は、当然選択の際の参考値として考えさせていただくということで、ご理解いただければと思います。

(記者) 引き続きもう一点この関係でお聞きしたいのですが、選定の時期は、地区もあることだし、明言できないという話ですがその辺の考えが変わらないのか、その部分をよろしいですか。

(市長) お相手があることでもありますので、いつまでにという期限は、申し上げることは難しいと思います。しかしできるだけ早く決められるように努力してまいります。

(記者) 諏訪市が建設しないという選択肢はないという考えも変わらないでよろしいです

か。

（市長）これは湖周 2 市 1 町の約束事であります。岡谷市の地域に中間処理施設、焼却場を設置する、そして最終処分場を諏訪市に置く、というのが湖周行政事務組合の合意事項でスタートしております。これを変更するという予定は今ありません。

○諏訪湖エリアで開催するイベントへの市長の期待について

（記者）今週末に諏訪圏フォーラム、S UWA×文楽、さらに 27 日に諏訪湖マラソン、諏訪湖を舞台にした大きなイベントがあります。県外からも大勢来られるが市長が残念ながらいないということもあるので、その二つのイベントに寄せる期待をお聞かせください。

（市長）諏訪湖周自転車道ができて、そしてスワコエイトピークスミドルトライアスロン大会が行われ、伝統ある諏訪湖マラソン大会がここで開かれるということで、この諏訪湖に注目が集まってきていると私は思います。実行委員会を開かせていただいた諏訪湖の花火も、日本の中でも有数の大会として位置付けられてきておりまして、来年の夏にはスマートインターチェンジが開通するとかそういう意味で、諏訪湖周、諏訪湖は本当に発信力のあるすばらしいエリア、そして湖を中心としたエリアになってきているというふうに感じておりますので、二つのイベントも大変大歓迎でありまして、成功と天気にも恵まれますように祈っているところです。私は残念ながら、セントルイス 50 周年の交流事業ということで、留守をいたしますが副市長が、しっかりと代理を務めてくれることになっておりますので、お願いをしてあります。J C の皆さんも、それから大昔調査会の皆さんや関係する皆さんは文楽ということで、『本朝廿四孝』これに注目していただきましたことも、大変良い視点だと思います。文楽というと伝統芸能です。そして、この物語は江戸時代に、ものすごく人気を博したもので、八重垣姫は仮想の人物ではありますが、湖の中に銅像がありその思いというのは現在にそうしたものを通じて繋がつてきているということですので、またここで一節入れていただいて、日本全国に発信していただけたらという期待があります。

○最終処分場について追加質問

（記者）最終処分場を関係ですが、斜面の建設ということでありましたけれど、昨今の気候変動、土砂による斜面の崩壊というのが頻発している状況だと思いますが、その選定場所によって今後そのような気候変動による、地形変化といったものを考慮することはあり得るのかどうか、この点をお伺いしたいです。

（市長）湖の内側の急傾斜は非常に厳しいです。板沢のエリアになるとなだらかな斜面です。板沢に選定するときも、傾斜はあるというものの、比較的なだらかで安定している地形ということで選定されました。当然、選定する中に、地質的にも安定したところであるということとは考慮に入っています。

（記者）板沢に関してはすでに考慮していたということになりますか。

（市長）考慮していたということです。

（総務部長） それでは以上をもちまして 10 月の定例記者会見を終了します。
ありがとうございました。